

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和2年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

| 番号 | 研究名 | 研究代表者 | 評価 |
|--|-------------------------|---------------------|----|
| 2020-7 | 走行中ワイヤレス給電のコイル埋設についての研究 | 東京理科大学 准教授 居村 岳広 | A |
| <p><研究の概要></p> <p>走行中充電における道路側コイルの電気的特性と機械的強度向上させた上で、アスファルトへの埋込み技術確立を目的とする。電気的特性（効率・電力など）と機械的特性（耐久性など）を従来コイルと比較し、経年劣化の評価を行い、埋込み深さの最適化、低コストコイル等の可能性を示す。</p> <p><中間評価結果></p> <p>コイルの電気的特性と舗装としての機械的特性の両立により、今後の実用化に向けた基礎的成果となることが期待されることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none">・送電効率の向上の理論的根拠、材料や構造の組み合わせの影響の整理が望ましい。・舗装の耐久性に与える影響について、現在進行中の土木研究所および校内での走行試験結果に期待したい。・技術的な可能性は理解できるが、社会実装される姿をイメージすることが難しいことから、現場実装を意識して研究を取りまとめられたい。・コイルの発熱対策、漏洩磁界対策を公道での実証実験に向けた課題として掲げられており、実証実験の実施のために達成すべき水準、又は達成が望ましい水準をあらかじめ示すことが望ましい。 | | | |

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第47回新道路技術会議において審議したものである。